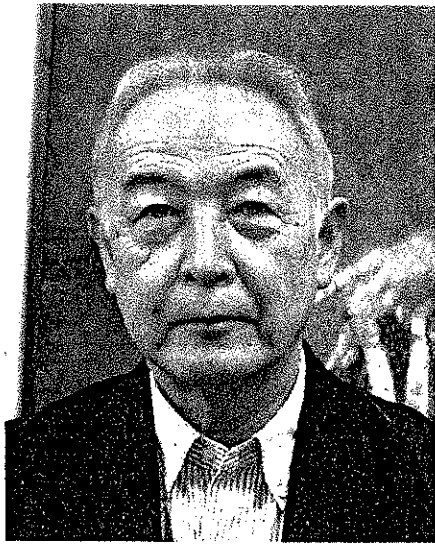


反核・脱原発当たり前に

ドイツ・フランス公共放送で7月に放送した「我が友・原子力」放射能の世紀」を、この10月高知や青森、福島などで巡回上映しました。作品は、アメリカ製の福島第一原発の事故でトモタチ作戦に従事した空母ロナルド・レーガ



作家・映像作家の在住パリ渡辺謙さん

ンのアメリカ兵による放射能除染作業の証言と、アメリカ軍が行ったピキニ海域での核実験で日本の漁船員が被ばくし、裁判に立ちあがっている事実を対比させました。巡回上映は、個人のいわば政治活動です。反核・脱原

わたなべ・けんいち 81年、毎日放送文明シリーズで監督デビュー。97年パリに移住。『フクシマ後の世界』(2012年)、『核の大地—プルトニウム物語』(15年)など、日本を含む核と原発・被ばくをテーマにした作品を次々に発表。

発の主張はフランスでも日本でも政治的立場とみなされませんが、この上映で反核・脱原発の常識化に多少貢献できれば、と思います。日本滞在中に、核兵器禁止条約を50カ国目が批准し、来

流れかえよう

年1月に発効するニュースがありました。唯一の戦争被爆国なのに条約にサインしない日本は、国際的信用度にかかわり「矛盾の国」というレッテルが貼られています。広島、長崎に投下された原爆の非人道性や残酷性を訴えながら、条約にサインしないのは「二枚舌」との批判です。日本がサイン・批准して核兵器廃絶にむけてイニシアチブを発揮してこそ、国際的な信用度も高まり、政策に一貫性があるとみなされるでしょう。

菅首相が、日本学術会議会員の人事で6人を任命を拒否したことは、学術という独立性や自主性を侵害する、ごう慢な強権政治そのものです。その点、まともな政党は共産党だといえます。シンシケート政治を終わらせ、反核脱原発が当たり前の政治にしてほしいですね。

「気に入らない人こそ面白

聞き手 阿部活士